

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
100	川崎市立西生田小学校	樋口彰

学校教育目標	今年度の重点目標
1. かしこく(考える子) 2. やさしく(思いやりのある子) 3. たくましく(たくましい子)	子どもを自立した学習者に育てる ①自分で考える⇒②周囲と関わる⇒③自分で決める⇒④自分の考えを表す ⇒⑤自分の考えを確かめる・深める⇒⑥自分の成長・学びを認識する

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力(だれ一人取り残さない)	(1) 知識・技能の習得、みんなでよくなる学びや交換授業、合同授業等の推進 (2) 算数をはじめ、すべての活動において認め合い、学び合い、高め合いを意識した授業づくり・学級づくり (3) GIGAスクール構想のもと、個別最適な学びと個に応じた学習の場の創造と推進 (4) 不易な教育と時代の変化に対応した教育の推進(読書、外国語、SDGs)	■期間限定も含め、1年・5年・6年での交換授業を実施し、児童理解、学習支援にも役立てることができた。 ■算数の研究の推進、GIGA端末の活用等により、主体的・対話的で深い学び、子どもが主語の学びに向けた実践を進めた。 ■朝読書、読み聞かせ、学校司書の協力などで充実した読書活動が実践できた。SDGsは4年生を中心に実践した。 【課題】 ◆個別支援(取り出し、入り込み等)への保護者要望に対する取り組み。(マンパワーの限界) ◆授業、学級経営に不安が見られる教員への支援体制。 ◆サポート級児童の学力の向上。	「自立した学習者」をめざし、来年度の市制100周年、令和7年度の本校150周年とその後の1年間を一つの区切りとして、今後、3年の中期目標を立て実践していく。 1. 「自立した学習者」「一人一人が主語の学び」(個別最適な学び)が今後どう子どもの将来に生きていくのか。校内研究や研修の機会を通じて共通理解していく。 2. 人権尊重の理念について、いつでもどこでも誰にでも話し合える機会を作る。 3. 児童理解、授業力の向上をめざし、交換授業への取り組みを進める。 4. 算数教科担任(5年生予定)もと、当該学年担任による取り出し・入り込み支援を実施する。 5. サポート級では、各教科等の学習が安心してできる物的な環境を整える。
2 豊かな心	(1) 特別の教科道徳や各教科等における人権尊重教育の推進 (2) 共生・共育プログラムに基づく、自己受容を促す人間関係づくり (3) キャリア在り方生き方教育の推進 (4) 児童支援コーディネーターを核とした組織的な児童支援活動の取組	■「キャリア在り方生き方教育」のノートやいじめアンケート等を効果的に活用し。自己を振り返る場を設け個々の成長の一助とした ■支援教育Coを中心に児童支援に関する会議を行い、関係者の共通理解のもと課題解決を図った。 ■効果測定を計画的に実施し、子どもの実態把握と今後の支援に活用することができた。 【課題】 ◆支援を要する児童に対する手立てを検討し、全職員で共通理解を図り、学校全体で組織的に取り組む。 ◆課題を抱えている児童の保護者への対応について、全職員が共通認識していく。	■登校を渋りがち、資質・能力面、友達関係等で困難さを抱えている児童と保護者の精神面での健康に細心の注意を払い、本人が相談しやすい職員に相談できるような体制(1週間程度の相談週間)を作る。 ■支援を要する児童や学級に対し、対応を共通理解する場を設け、組織的な対応をしていく。 ■サポート級では、担任が効率的な支援ができるようサポートノートや日々の連絡ノート等の見直しをする。また、定期的に指導主事や専門性のある教員より指導助言を受ける。 ■全クラスで学校巡回カウンセラーや通級指導学級の担当者との連携を強化し、支援教育全般にかかる教員の力量を高める。特に学校巡回カウンセラーの力量を高める。

3	<p>健やかな体</p>	<p>① スポーツフェスティバルやスポーツテスト、運動委員会の取組等、計画的な体力向上の実施 ② 安全教育指導計画による避難訓練や防犯・防災教育の取組 ③ 清掃活動や環境整備による校内における清潔で安全な環境づくりの充実 ④ 学級活動や体育科による健康教育や食に関する正しい知識の指導など食育の取組の推進</p>	<p>■スポーツテストやスポーツフェスティバルを昨年同様に実施した。また、運動委員会主催の全方向ドッジボール大会を今年度新たに実施し、運動する楽しさを味わうことができた。 ■目的に合わせた避難訓練の取組により、児童の安全意識の向上を図ることができた。 ■清掃活動を通して、感染症対策や美化への意識を高めることができた。 【課題】 ◆身体面・精神面を意識したより清潔で安全な環境づくり。 ◆健康教育・食育については、職員間で共通認識のもとに実施。</p>	<p>■体育授業の充実を図るとともに、児童の企画による活動を実施できるよう委員会活動とも連携していく。 ■全学年によるスポーツテストを継続して実施し、スポーツテストの結果から、体を動かすことの大切さについて積極的に働きかけていく。 ■食育部会は、年度当初に目標と実施計画を明確に設定し、全校での確実な実施を図る。 ■清掃活動や清潔で安全な環境づくりについては、年度や学期のはじめに共通理解し、全校で取り組むことを基本とする。</p>
4	<p>保護者・地域との連携、地域の教育力</p>	<p>(1) 説明会や授業参観、懇談会、学校評価等、情報公開の推進 (2) 市制100周年(R6)、創立150周年(R7)を見据えた地域との連携の強化 (3) 学校運営協議会(学校教育推進会議)、地域教育会議(地域学校協働本部)の立ち上げの推進 (4) ふるさと川崎、ふるさと西生田への心の醸成</p>	<p>■各種便りや学校報告会動画等を通して、学校の情報を発信することができた。 ■学校巡回カウンセラーの活用、マイ登校保護者の懇談会等により、保護者の不安解消に向けた学校の取り組みを理解してもらった。 ■気象観測は毎日児童が観測を行い、本校の伝統の継承と150周年に向けた準備が進んだ。 ■生活科・総合的な学習の時間では、地域の人材(農家の方や多摩美の森の会)や自然環境を生かした活動が実施できた。 ■150周年に向け、6年生の声を集め、母校を思う気持ちを高めた。 【課題】 ◆保護者や地域の方が来校しなくても学校の様子がある程度わかるようにしていく。 ◆学校評価アンケート保護者回答率を高める(今年度41%)。</p>	<p>■保護者・地域への発信は、可能な限り動画配信をしていく。 ■学年だよりを7学年分で1枚として行く方向で検討する。 ■「マイ登校保護者の懇談会」を継続する。既成概念にとらわれない新しい取り組みを職員と協力し実践する。 ■学校運営協議会(コミュニティ・スクール)への令和7年度移行を考え、西生田中学校と共通認識のもとに進めていく。 ■学校評価Webアンケート(保護者)の期間を2週間以上取り、リマインドメールも配信する。 ■市政100周年(R6)、150周年(R7)に向け児童の声を集め、R6年度より行事として実施していく。</p>
5	<p>安全・安心な学校</p>	<p>(1) 学校事故防止へのきめ細かな対応、及び発生時に対する組織的対応の構築・更新 (2) 時代の変化に対応できる危機管理意識と対策の強化 (3) 通学路の安全点検と登下校指導による安全対策の強化 (4) 児童・教職員の情報リテラシー・ネットモラルの向上への取り組みの強化</p>	<p>■引き取り訓練をはじめ、様々な場面を想定した訓練を計画的に実施した。「自分の命は自分で守る」ことを繰り返し指導した。児童が振り返りを行うことで迅速に行動できるようになった。 ■SNSでのトラブルを未然に防ぐように児童への情報モラル教育を担当が日常的に行うとともに、外部講師を招いての学習を実施した。 ■緊急時以外でも下校指導を定期的に行ったり、地域からの情報に即座に対応したりした。また、歩行指導や通学路の確認を行い、児童・職員の危機管理意識を高めた。 【課題】 ◆SNSはじめ情報リテラシーの向上めざした活動。 ◆児童の登下校時の安全意識(特に歩行時の広がり、ふざけ、ポケットへ手を入れっぱなしなど)の向上。</p>	<p>■情報リテラシーについて、ICT支援員を積極的に活用したり、外部講師をT2とした授業を行ったりし、担任の授業力も高めていく。 ■社会の中でできることを考える共助・公助の視点からも安全教育の充実に努める。 ■通学路の安全は、引き続き保護者や地域との連携を深め検討していく。また、各学年の実態に応じた登下校指導を実施する。</p>

6	教職員の資質の向上	<p>(1) 子どもを主語に語る、常に指導法の見直し等、教職員間での切磋琢磨</p> <p>(2) いじめ・不登校等に関する研修・ケース会議、組織的対応の徹底</p> <p>(3) 川崎市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進プランへの共通認識と、働き方改革への意識の向上</p> <p>(4) マイノリティ(少数者)に対する理解と知識の共有、教育活動の推進</p>	<p>■個別最適な学び、子どもが主語の学びについて、校内研究、校内初任者研修、校内5年未満研修等を活用し意識を高めた。</p> <p>■児童支援について、必要に応じ担任以外も含め複数人で対応し、学習の遅れや登校渋りが出ないように努めた。</p> <p>■性の多様性、いじめや体罰、登校渋り等人権尊重教育の視点を大切にされた校内研修を13回(講師を依頼しての研修は7回)行い、全職員の意識を高めた。</p> <p>■オンラインでの研修に積極的に参加し、実践に生かしてきた。</p> <p>[課題]</p> <p>◆児童・保護者に寄り添った指導や誠実な対応を、職員誰でもが共通して実施できるようにする。</p> <p>◆働き方について、授業に専念できる時間確保、業務量削減、ライフプランの見直し等を全教職員で共通理解する。</p>	<p>1. すべての子ども・職員の心身の健康・幸福を願い、誰にでも大切な家族がいるということを常に呼びかけていく。</p> <p>2. 共に創る、共に成長するということを共有し、「お互い様」が気軽に言える職場としていく。</p> <p>3. GIGAスクール構想ステップ3を意識し、探究的な学びの支援を重視する。また、すべての教員がこれからの学びに必要な授業力を高めるために、職員同士の学び合いの機会を作る。</p> <p>4. 職場の特性を踏まえ、「自分に足りないところは子どもが教えてくれる」ということを全職員が意識できるようにしていく。</p> <p>5. R7年度に控えた150周年や今後の教職員としてのライフスタイルを見据え、持続可能な働き方を意識し、教材研究等の時間を確保(学期末や毎週木曜日の5時間授業)する。</p>
---	-----------	---	---	--

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>1. 昔と違って、子どもたちが様々な活動(教室内での自席らの移動や活動や図工作品等)をしていて、のびのびしている印象を受ける。</p> <p>2. 学校の多様性を大切に指導にあたってほしい。いろいろな子が集まっているのが公立学校の良さといえる。これまで通り、理念のもと毅然とした態度で保護者等に対応していただきたい。PTAも協力したい。</p> <p>3. 先生一人一人の個性や努力を大切に指導に当たってほしい。一律の指導は、教員の負担は減るが、モチベーション低下の可能性もある。</p> <p>4. いわゆる「置き勉」やランドセルの是非についても検討してほしい。</p> <p>5. アンケート項目は「学校の勉強がわかるか」「学校に居場所があるか」の2点に集約されるべき。</p>	<p>全校スタンダードとしてでそろえるところ(日常の生活様式等)と、学級によりさまざまであってもよい部分を共有し、職員一人一人の個性が発揮される学校づくりに努める。次年度も「子どもを自立した学習者に育てる」ことを継続し、「自分と友達を大切にする」クラス、学年、学校を目指していく。次年度は次の点を意識していく</p> <p>1. 子どもを自立した学習者に育てる(他者参照と自己調整のある学び方)</p> <p>2. 自分と友達を大切にする</p> <p>3. 働きやすさと働き甲斐を高めて生産性を上げる(子どもも大人も「西生田でよかった」と実感できる学校)</p>